

共感性の認知的要素としての 「役割取得能力」測定を試み

吉 村 真理子

A Study of Measurement of “Role Taking Ability”
as a Cognitive Factor of Empathy

Mariko YOSHIMURA

役割取得能力を測定するSelman課題を児童に実施し、回答が紋切り型にならず、各レベルに分散するような弁別力のある問題を精選し、「役割取得能力」得点として得点化することを試みた。精選の際には、「主人公がその役割取得を行う相手の視点が明確であり、そのため自己の視点との葛藤が生じやすい」ことが重要であるとし、その観点から、評定レベルの再定義を試みた。「役割取得能力」得点の男女別分布はほぼ正規分布を示し、また信頼性係数もほぼ結果となっていることから、得点化は妥当であると考えられる。

本論文は、昭和62年度千葉大学大学院学校教育専攻（教育心理学分野）に提出した修士論文「児童における向社会的行動とその規定因」の一部に加筆・修正したものです。

I 問題と目的

「共感性」（empathy）とは、「他者の感情状態を認知することで、他者と同じような情動経験をすること」〔Feshbach, N. D. (1976)〕である。従来、認知的理解を強調する立場や情動経験を強調する立場という2つの流れがあったが、上記のような統合的な捉え方が妥当であるといった見解が受け入れられてきている。

「役割取得能力」（role-taking ability）は、共感性の認知的側面を構成するものとして位置づけられる。すなわち、他者の立場を取り、他者の認知・意図・行動を推論する能力であり、他者との相互交渉をする際に必要な、他者の視点と自己の視点との関係を理解する能力と考えられる。

この能力は、Piaget, J. のいう自己中心的思考の段階を脱してから、具体的操作段階（7～11歳）を通じて次第に伸びていき、さらに形式的操作段階（11, 12～14, 15歳）に達して安定したものとなるといえる。

「役割取得能力」を測定するものにSelman課題〔Selman, R. L. & Byrne, D. E. (1974)〕がある。これは、物語の登場人物が他者の視点をどのように理解していると、子どもは考えるのかを段階評定するものである。

本研究では、このSelman課題の評定レベルの基準〔Selman, R. L. (1976)〕とそれを紹介している木下 (1982)、菊池 (1983) を参考にして、各レベルの再定義を試みた。さらに、この課題を児童に実施し、児童のステートメントが紋切り型にならず、各レベルに分散するような弁別力のある問題を精選し、「役割取得能力」として得点化することも試みた。

II 調査方法

1. 対象

千葉県内公立小学校6校7クラスの小学6年生272名（男子142名、女子130名）

2. 時期

昭和62年7月中旬

3. 手続き

筆者が作成した調査実施手順に従って、適宜、指示や音読を行うよう各学級担任に依頼し、各教室において集団で実施した。

4. 調査内容と測定具

(1) Selman課題

Selman課題は、「猫を助けるために父との約束を破るかどうか」、「飼い犬が死んで悲しんでいる友だちの誕生日に犬をプレゼントするかどうか」、「妻の命を助けるために薬を盗むかどうか」（第3話は、KohlbergのストーリーからSelmanが採択したもの）という、いずれも葛藤場面を含んだ3つの物話から構成されている。

本研究では、上記3話を3枚あるいは5枚の挿絵と文章で提示し、その後で、主人公がどのような気持ちでどのように行動するか、相手が主人公に対してどのような気持ちを抱くかに関し、1話につき4つの質問への回答を求めた。4問の回答形式は、1問が二者択一式、3問が自由記述形式で、評定対象となるのは後者の方である。（質問紙の内容についてはAppendix 1参照。）なお、被験者の物語についての理解を助けるため、担任が各話を朗読した後で回答させた。

III 結果と考察

1. Selman課題の評定レベル

Selman課題の評定レベルの基準〔Selman, R. L. (1976)〕とそれを紹介している木下

(1982)、菊池 (1983) の定義をまとめたものが、Table 1である。Selmanのレベルは、レベル 0「自己中心的役割取得 (Egocentric perspective taking)」、レベル 1「主観的役割取得 (Subjective perspective taking)」、レベル 2「自己内省的役割取得 (Self-reflective perspective taking)」、レベル 3「相互的役割取得 (Mutual perspective taking)」の 4 段階から構成されている。

これは、役割取得能力を、自己の視点と他者の視点とが分化し、その両視点間の調整がなされていく構造的変化の過程としてとらえようとするものである。本研究では、視点という概念に基づいて、レベル 0「自己の視点の固執」、レベル 1「二者の視点の並列と、一者の無

Table 1 Selman 課題の評定レベルの基準

	レベル 0	レベル 1	レベル 2	レベル 3
Selman, R. L. (1973)	Egocentric perspective taking 他者の単純な情動は同定できるが、自己の視点と他者のそれとを混同することも多い。他者が自己と異なった見方をする事がわからない。	Subjective perspective taking 他者の思考や感情が自己のそれらと同じであるとか異なるとかということを理解し始める。人びとは状況や情報が異なれば、異なった感情や考えを持つこともわかる。	Self-reflective perspective taking 自己の考えや感情を内省できる。自己の考えや感情についての他者の視点を予想できる。そして、その予想が他者についての自己の視点に影響を与えることもわかる。	Mutual perspective taking 第三者の視点を想定できる。自他の相互交渉において、それぞれが他者の立場に立つことができるし、いかに対処するかを決定する前に、そのより高い視点から自己を眺めることができる。
木下 (1982) 菊池 (1983)	自己中心的役割取得 他人の感情を表面的には理解するが、自分の感情と混同することも多い。同じ状況でも、他の人と自分とでは違った見方をする事もあることに気づかない。	主観的役割取得 人びとは情報や状況が違えば違った感情や考え方をすることには気づくが、他の人の視点には立てない。	自己内省的役割取得 自分自身の思考や感情を内省できる。他の人が、自分の思考や感情についてどう見るかを予想することもできる。	相互役割取得 第三者の視点を想定できる。人は同時に、お互いに相手の思考や感情などを考察し合って、相互交渉していることに気づく。
本研究	自己の視点の固執 自己の視点だけへの言及である。	二者の視点の並列と、一者の無条件の優先 二者それぞれの視点を単にあるいは表面的に並列させて言及したり、一者を無条件に優先させるため、一者への固執となる。葛藤がなく、行動選択理由は独りよがりとなる。	二者の視点の拮抗と、両者の葛藤 二者それぞれの視点をかなり深く理解した上で、並列させて言及する。他者の視点を十分にとれるがゆえに葛藤が生じる。	第三者の視点の導入による葛藤の解決 両者の視点を同時的かつ相互的に関連させることができる。第三者の視点を想定することによって、レベル 2 の葛藤を合理的に解決することができる。

条件の優先」、レベル2「二者の視点の拮抗と、両者の葛藤」レベル3「第三者の視点の導入による葛藤の解決」というように再定義し、評定を試みた。

2. Selman課題に対する回答結果についての基礎集計と性差の検討

ステートメントをレベル3からレベル0の4段階で評定し、その順にそれぞれ4～1点を与えて得点化した。性差を検討するために、各問について、男女間で平均値をt検討により比較した結果をまとめたものがTable 2である。表に示すように、4問のうち3問に性差が見られ、いずれも女子の方が有意に高得点を示している。

先行研究では、役割取得能力における性差はほとんど取り上げられていないが、最終的な項目選択後の分析は、男女別に行うこととする。

評定対象として4問を選択した理由は「3. Selman課題の項目分析」において後述する。

Table 2 Selman 課題回答結果についての性差の検討

項目 番号	全体	男子	女子	t 値
	平均 (S.D.)	平均 (S.D.)	平均 (S.D.)	
1	2.12 (1.06)	1.98 (1.03)	2.38 (1.05)	-3.14 **
2	2.32 (0.98)	2.21 (0.94)	2.43 (1.01)	-1.84
3	2.56 (0.97)	2.39 (0.98)	2.74 (0.93)	-3.02 **
4	2.50 (1.14)	2.35 (1.71)	2.67 (1.07)	-2.31 *
計	9.58 (2.73)	8.93 (2.63)	10.31 (2.66)	-4.20 **

「相互的役割取得」4点

** p<.01

「自己内省的役割取得」3点

* p<.05

「主観的役割取得」2点

「自己中心的役割取得」1点

3. Selman課題の項目分析

児童のステートメントの評定は、筆者を含む心理学を専攻した3名で行った。評定者間で評定が異なった場合、3名で討議し納得できる該当レベルを決定するという方法で評定した結果、各評定者の正答率は87～90%であった。

さらに、実際に児童のステートメントの評定した結果、「妻の命を助けるために薬を盗むかどうか」という物語については、「法を犯して薬を盗む」とことと「法を守り薬を盗まない」とことが、法律の遵守という道徳観念の問題も関連し日常生活レベルで拮抗するものではないためか、児童のステートメントのほとんどが紋切型となったため、除外することとした。結局、評定可能である問題は「主人公がその役割取得を行う相手の視点が明確であり、その

ため自己の視点との葛藤が生じやすい」ことが重要であるとし、最終的に、以下の4問を評定対象とした。「猫を助けるために父との約束を破るかどうか」については、「けい子ちゃんはどう考えてそうするのかな?」、「お父さんは、こういう場合、けい子ちゃんにどうしてほしいと思うかな?」「もし、けい子ちゃんがお父さんとの約束を破って木に登り、子ねこを助けたら、お父さんはどう思うかな?」の3問、「飼い犬が死んで悲しんでいる友だちの誕生日に犬をプレゼントするかどうか」については、「もし、あきら君が正男君に犬をあげたら、正男君はどう思うかな?」の1問、計4問である。

それらの問題の評定レベルの基準を各問に即して詳述したものが、Table3～Table6である。また、各問の得点を合計したものを「役割取得能力」得点とし、男女別のそれぞれの分布を、並記させて示したものがFig 1である。男女別にはほぼ正規分布を示しており、役割取得能力を評価するテストとしても妥当であると考えられる。

また、男女別に全4問の信頼性係数（Cronbachの α 係数）を算出したところ、それぞれ0.51と0.56であり、得点を構成する項目としての的確さからしても、おおむね満足し得る結果となっている。

Table 3 問題1(2)「けい子ちゃんは、どう考えてそうするのかな?」の評定レベルの基準

	レベル0	レベル1	レベル2	レベル3
	自己の視点の固執	二者の視点の並列と、 一者の無条件の優先	二者の視点の拮抗と、 両者の葛藤	第三者の視点の導入に よる葛藤の解決
	父への言及がなく、子ねこに対する同情など、けい子の視点だけが述べられる。	父との約束に言及はするが、それを軽視あるいは単純視しており、父の視点の理解にまで至らないため、自己の視点の固執となる。	父の視点への理解が深まり、なるべく約束は破りたくないという気持ちと、子ねこを助けたいという願望との葛藤が述べられる。	この状況の特殊性が述べられ、非常事態でしかたなく父との約束を破ったことを父に話せば、理解してくれるだろうという予測などが述べられる。
回答例	○子ねこがかわいそうだから。 ○命に関わることだから。	○お父さんと約束したが、ゆっくり降りれば落ちないから。 ○お父さんとの約束より、子ねこの命の方が大切だ。	○お父さんとの約束は守りたいけど、やっぱり子ねこを助けたい。 ○お父さんとの約束も大切だけど、子ねこの命の方がもっと大切だから木に登る。でも、今度からは、もう木登りはしない。	○お父さんと約束したが、木から落ちそうな子ねこを助けることは良いことだから、お父さんも許してくれるだろう。 ○お父さんと約束したが、今、子ねこを助けなかったら子ねこは死んでしまう。それをお父さんに話せば、わかってくれるだろう。

Table 4 問題1(3)「お父さんは、こういう場合、けい子ちゃんに
どうしてほしいと思うかな？」の評定レベルの基準

レベル0		レベル1		レベル2		レベル3	
自己の視点の固執		二者の視点の並列と、 一者の無条件の優先		二者の視点の拮抗と、 両者の葛藤		第三者の視点の導入に よる葛藤の解決	
【不許容】		【不許容】		【許容】		【許容】	
けい子の視点に対する理解がなく、木に登らないでほしいという父の視点だけが述べられ、自己の視点の固執となる。		けい子の視点への言及はあるが、深い理解には至らず、けい子に木に登らないことを納得させるため、状況の緊急性や実現の可能性を無視した気休め的な慰め(条件)が付されるだけで、自己の視点の固執となる。		けい子の視点への理解が深まるにつれ、けい子が木に登ってけがをしたら大変という心配と、けい子の子ねを助けたいとの願望を実現させてやりたいという気持ちとの葛藤が述べられる。		非常事態であり、けい子が木に登ることもやむを得ないとする、この状況の特殊性が述べられ、合理的な解決となる。	
回答例	○約束を守って木には登らないでほしい。 ○子ねこの命を助けることより、けい子の体の方が大切だ。木から落ちてけがでもすると大変なので、木には登らないでほしい。	○子ねこは木から落ちてちゃんと足で着地できるから、木には登らないでほしい。 ○子ねこが木から落ちたら、手で受けとめてやればよいのだから、木には登らないでほしい。		○子ねこを助けることはいいことだが、木から落ちてけがでもすると大変なので、あまり登ってほしくない。 ○できることなら登ってほしくないが、子ねこが危ないので、木から落ちないように気をつけて助けてやってほしい。		○こういう場合は、かわいそうな子ねこを助けるために、約束を破って木に登ってもしかたがないな。 ○木から落ちてけがをすると危ないので、遊びで登ることはいけないと言ったが、こういう場合は子ねこを助けてやってほしい。	
		【準許容】 けい子に約束させておきながら、その約束との葛藤や調整が述べられず、けい子の視点を無条件に肯定してしまっており、他者の視点の固執となる。		【準不許容】 上記の葛藤が述べられるが、心配の方がやや強い。			
回答例		○木に登って子ねこを助けてほしい。 ○早く子ねこを助けてほしい。		○できれば木に登らないでほしい。 ○子ねこもかわいそうだが、けい子が大けがをすると大変なので、登らないでほしい。			

Table 5 問題1(4)「もし、けい子ちゃんがお父さんとの約束を破って木に登り、子ねこを助けたら、お父さんはどう思うかな？」の評定レベルの基準

レベル0		レベル1		レベル2		レベル3	
自己の視点の固執		二者の視点の並列と、 一者の無条件の優先		二者の視点の拮抗と、 両者の葛藤		第三者の視点の導入に よる葛藤の解決	
【不許容】		【不許容】		【許容】		【許容】	
けい子の視点に対する理解がなく、約束を破ったけい子に対する憤りや非難だけが述べられる。		けい子の視点への言及はあるが、表面的であり、約束を破ったけい子に対して不満などが述べられ、自己の視点の固執となる。		けい子の視点への理解が深まるにつれ、約束を破ったけい子を戒める気持ちと、子ねこを助けたけい子のやさしさを認める気持ちとの葛藤が述べられ、けい子の行動に対する評価となる。		非常事態であり、けい子が木に登ることもやむを得ないとする、この状況の特殊性が述べられ、合理的な解決となる。	
回答例	○2度と登るなといったのに。 ○子ねこの命を助けることの方が大切だから、木には登るな。	○あーあしょうがないなあ。子ねこが助かったからいいが、2度と高い所に登ってはいけないぞ。 ○けい子もけがをしなかったし、子ねこの命も助かったが、今度から、約束はちゃんと守りなさい。		○約束を破ったのは悪いが、1ぴきの子ねこの命を助けたので、まあ、いいだろう。 ○少し危なかったかもしれないが、子ねこを助けたやさしさは伝わってくる。		○遊ぶためにではなく、子ねこを助けるために登ったのだから、許してやろう。 ○子ねこを助けたいというやさしい気持ちから、約束を破って木に登ったのだから、しからずにほめてやろう。	
		【準許容】 けい子に約束させておきながら、その約束との葛藤や調整が述べられず、けい子の視点が無条件に肯定してしまっており、他者の視点の固執となる。		【準不許容】 上記の葛藤が述べられるが、戒める気持ちの方がやや強い。			
回答例		○落ちなくてよかったね。 ○えらいな。		○けい子のやさしさもわかるが、自分の命の方が大切ななあ。 ○子ねこを助けたのはとてもいいことだが、1人で勝手に登ったのがいけなかったな。			

Table 6 問題2(4)「もし、あきら君が正男君に犬をあげたら、正男君はどう思うかな？」の評定レベルの基準

レベル0		レベル1		レベル2		レベル3	
自己の視点の固執		二者の視点の並列と、 一者の無条件の優先		二者の視点の拮抗と、 両者の葛藤		第三者の視点の導入に よる葛藤の解決	
【積極的拒否】 あきら君の視点に対する 考慮がなく、子いぬをプ レゼントしたあきらに対 する憤りや非難が述べら れ、自己の視点の固執と なる。		【消極的拒否】 あきら君の視点の言及はあ るが、表面的なもので、 いぬをプレゼントしたあ きらに対する不満が主と して述べられ、自己の視 点への固執となる。		【消極的（段階的）受容】 あきら君の視点の理解が深 まるにつれ、死んだポチ への思慕とあきら君の好意 とが葛藤し、憤りや非難 が述べられる。しかし、 時間的経過の中で、あき らの視点の受容が可能に なり、やがて感謝が述べ られる。		【積極的受容】 あきら君の視点の深い理解 と、自己の死んだポチへ の思慕とが、時間的展望 を伴った自然な形で融合 されている。	
回 答 例	○他の犬は飼う気がしな いと言ったのに。 ○ あきら君は残酷だな。	○悪いけどくれなければ いいのに。 ○悪いけど、ポチが1番 良かったから、あきら君 のプレゼントは受けとれ ない。		○初めは「なんだこんな 犬。」と思って飼う気が しないが、そのうちに、 あきら君の心づかいに気 づいてありがたいという 気持ちになり、また飼う 気が出てくる。 ○初めは、ポチが死んだ というのに犬をくれたあ きら君に対して腹をたて るが、そのうちに、自分 のことを励まそうとして くれているあきら君の気 持ちに気づき、うれしく 思う。		○あきら君はほくをなく さめようとしてしてくれ ているのだから、その気持 ちにこたえて、死んだポチ の代わりにかわいがろ う。 ○あきら君はそんなに心 配してくれているのか。 ありがとう。ポチだと 思ってたかわいがるよ。	
		【準消極的拒否】 死んだポチに対する思慕 を、前にあきら君に話して いながら、その気持ちと 葛藤や調整が述べられ ず、無条件にあきら君の視 点を肯定してしまってお り、他者の視点の固執と なる。		【消極的（限定的）受容】 上記の葛藤状況の中で、 あきら君の気持ちを理解し ながらも、ポチへの思慕 も捨てきれず、いわば自 分に言い聞かせる形であ きら君の視点を受容する。			
回 答 例		○うれしいな、ありがと う。 ○別にポチじゃなくても いいや。		○せっかくあきら君がプ レゼントしてくれたのを 断るわけにもいかないの で、もらっておこう。 ○この子いぬをかわい がってあげられるか心配 だが、せっかくあきら君 がくれたのだから、でき るだけやさしくしてやろ う。			

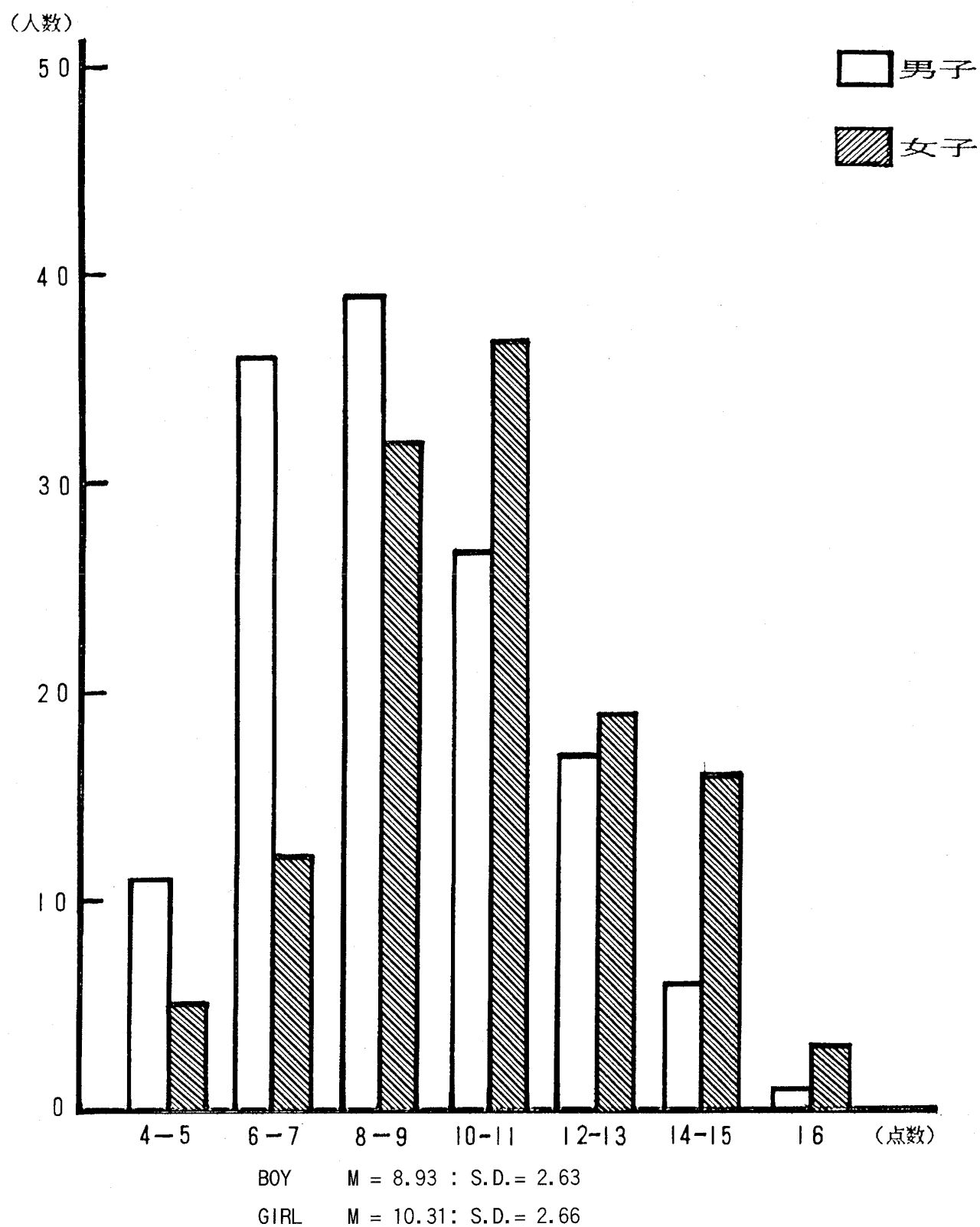


Fig. 1 「役割取得能力」得点の分布〔男子・女子〕

参考文献

Feshbach, N. D. 1976 Empathy in children: A special ingredient of social development, Invited address to the meeting of the Western Psychological Association Los Angeles, April.

菊池章夫 1983 『波多野・依田 児童心理学ハンドブック』 金子書房

木下芳子 1982 「社会的コンピテンス」 波多野誼余夫（編）『発達教育心理学講座』 朝倉書店

Selman, R. L. & Byrne, D. F. 1974 A Structural-Developmental Analysis of Levels of Role Taking in Middle Childhood Child Development, 45, 803-806.

Selman, R. L. 1976 A Developmental approach to interpersonal and moral awareness in young children: some educational implications of levels of social perspective-taking. In T. C. Hennesy (Ed.) *Values and Moral Development*, Pau List Press.

Appendix 1 問題 1・2の物語と設問

《問題 1》

①けい子ちゃんは、木登りの好きな8才の女の子です。

けい子ちゃんは、近所でいちばん木登りがじょうずです。

②ある日曜日、けい子ちゃんが高い木に登って降りようとしたとき、いちばん下の枝が折れて、けい子ちゃんは落ちてしまいました。運よく、たいしたけがはありませんでしたが、それを見つけたお父さんは、とても驚きました。

③お父さんはとても心配して、
「頼むから、2度と木登りはしないと約束しておくれ。」
と、けい子ちゃんに言いました。
けい子ちゃんは、約束しました。

④それからしばらくたったある日、けい子ちゃんは家からはなれたところで、子ねこが高い木に登ったまま、降りられなくなっているのを見つけました。
今すぐなんとかしないと、子ねこは木から落ちてしまいます。
木登りのじょうずなけい子ちゃんなら、子ねこのいる高さまで登って、子ねこを降ろしてやれるでしょう。

⑤けい子ちゃんは、お父さんとの約束を思い出しました。



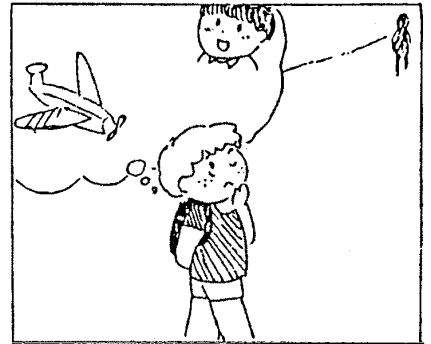
〈問題1 回答用紙〉

- (2) けい子ちゃんは、どう考えてそうするのかな？
- (3) お父さんは、こういう場合、けい子ちゃんにどうしてほしいと思うかな？
- (4) もし、けい子ちゃんがお父さんとの約束を破って木に登り、子ねこを助けたら、お父さんはどう思うかな？

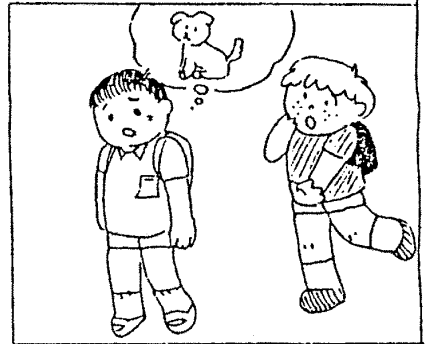
《問題 2》

- ① あきら君は、なかよしの正男君のたん生日に、プラモデルをプレゼントしようと思っていますが、まだ迷っています。

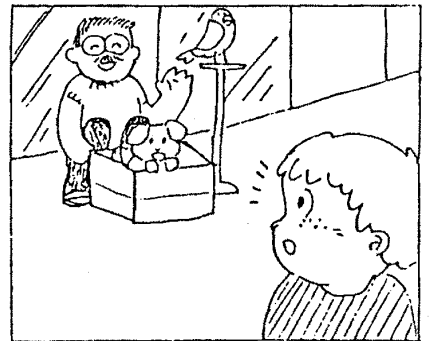
ちょうどそのとき、むこうから正男君がやってきたので、何かほしいものがあるかどうか聞いてみようと思いました。



- ②でも、正男君はとても悲しそうでした。あきら君が「どうしたの？」の聞くと正男君は「きのう、かわいがっていた犬のポチが死んじゃったんだ。」と、言いました。そこで、あきら君は「それじゃ、新しい犬をかったら？きっとまた、なかよくなれるよ。」と言いました。でも、正男君は「ほかの犬はかう気がしないんだ。」と言って、さびしそうに帰って行きました。



- ③あきら君は、正男君に何をあげたらいいか、こまってしまいました。おもちゃ屋さんへ行くとちゅうで、あきら君は、かわいい子犬をととても安く売っているお店を見つけました。子犬は、もう1ぴきしか残っていません。



〈問題2 解答用紙〉

- (2) あきら君は、どう考えてそうするのかな？
- (3) 「ほかの犬は飼う気がしない。」と言った正男君の気持ちは、どんなかな？
- (4) もし、あきら君が正男君に犬をあげたら正男君はどう思うかな？